

日 本 基 督 教 団

No.102
2025.11.5

関東教区教会婦人会連合便り

仕えなさい



エフェソの信徒への
手紙
5章21節～33節

渋谷教会牧師
新島学園短期大学
宗教主任

ひじ なつ え
臂 奈津恵牧師

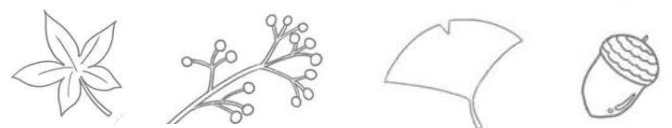
聖書を読んでいると慰められるだけではなく、疑問を持つことも、また反論をしたくなることもあるのではないだろうか。エフェソの信徒への手紙は励まされるみ言葉に溢れている一方で、5章22節には「妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。」と述べられている。しかも続く23節には「夫は妻の頭」との表現もあり、何かしら心にモヤモヤを感じずにはいられない。特に苦勞をして「夫婦」をしている時には尚更ではないだろうか。

さて、エフェソはキリスト教がパレスチナから地中海世界に広がっていく上で、拠点となった都市である。このパウロの手紙には教会の一致に関心が寄せられ、またキリスト者がどのような生き方をすべきか述べられているが、家庭の中での規則、家訓ともいえるようなものがこの5章には述べられている。我々にとっては違和感を覚える聖書箇所であっても、当時、この手紙を受け取った人々にとってはとても目新しく、斬新な考えであった。それは女性の人権が認められない時代であるにも関わらず「妻」が一人の人として扱われ、21節では「キリストに対する畏れをもって、(妻も夫も)互いに仕え合いなさい。」と勧められているからだ。妻が一方向的に夫に仕えるのではなく、共

に仕え合うことをパウロは勧めているのである。これが処世術としての家訓に留まらないのは、キリスト者が人との関係の模範を主イエスに求めることが出来るからではないだろうか。主イエスは十字架に掛かれる前、弟子たちの足を洗われ「主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。」(ヨハネ福音書13章14節)と模範を示された。当時、舗装されていない道を歩く埃だらけの客人の足を洗うのは奴隷の仕事であったが、何よりも主イエスご自身が自らの手を汚して私たちに仕えてくださっているのである。



「仕える」という言葉が上下関係を現わすものではなく、ひたすらに人と共に生きる術として理解された時、自らの狭い価値観で苦しむことなく主イエスの示された大きな愛を知ることが出来るのではないか。夫婦関係、家族関係、様々な人間関係で私たちは苦勞を覚えることもあるが、何よりも主イエスが私に仕えて下さっていることを覚え、互いに仕えあえるようになりたいと願う。



講演会

メッセージ

高崎教会
安部勉牧師



病院チャプレンの役割と

霊的ケアの意義

病院牧師は生と死を超えた永遠の命と神の愛を示し、祈りや家族への慰めを通じて患者と家族の悲嘆に寄り添う者です。具体的には「スピリチュアルケア」を行います。患者さんの全人的苦痛(身体的、精神的、社会的、霊的苦痛)に対応し、痛みや苦悩に共感し支える役割を果たします。

霊性(スピリチュアリティ)と

人間の存在意義の探求

「霊性」とは人生の危機に直面した際に自己同一性を超越的または内面的な究極のものに求めることと言えます。苦悩や痛みの中で意味や解放を求める普遍的な人間の欲求とも言えるでしょう。宗教的制度の世俗化の中で「霊性」は宗教を超えた自己理解の枠組みとして重要視されています。

たましいの痛みと意味の探求

病気や事故に遭遇した際の「なぜ私が」との問いは、根源的な問いでもあります。しかし「答え」はありません。精神科医のフランクフルはロゴセラピーの中で「何故私が」と問うのではなく「この出来事は私にとってどのような意味があるのか」を探求することと示しました。また「苦しみ」とは「こうありたい自分」と「今の自分」とのギャップに起因するという考えがあります。

妻の闘病と死に向き合う

経験からの学び

家族の「家庭」での看取りを経験された方の手記に基づき残された言葉、思いから「死に向き合う」ことを教えていただきました。その手記には抗がん剤治療、副作用、転移、緩和ケア、家族との時間、在宅医療、看取りまでの過程が詳細に記録されていました。その痛みや苦しみの中で家族の「霊的ケアと支え」が重要であることを手記を記した方は強調しています。そして「クリスチャンの死生観に基づく肯定的な死の受容と家族全員での看取りが霊的な一体感を生み出した」と振り返っておられました。

在宅医療と信仰に基づく

霊的ケアの効果

手記の作者は在宅医療は医療コスト削減だけでなく、家庭環境が患者に与える霊的・精神的効果が大きく、クリスチャン家庭では日常的な霊的ケアが可能であり、ホスピス以上の終末ケアの場となりうると断言します。「信仰」が支えとなっていると。

たましいの求めるケアと

共感の重要性:まとめ

私たちの根源的な欲求、それは「たましい」が求めるものです。

その求めとは

「わかってほしい」

「うけとめてほしい」との願いです。

誰もが話を聞いてもらい関心を持たれ共感されることを必要とするのです。そして痛みや苦しみが思い通りにならなくても「一緒にいる」ことが支えとなり、人生を振り返る機会を持つことが「ケア」となるのです。



第 51 回総会報告

2025年度関東教区教会婦人会連合総会が高崎教会で開催され、議案はすべて承認されました。以下の通り御報告いたします。

期 日 2025年 6 月 5 日(金)

場 所 高崎教会

出席代議員 45名 委任状 32通
合計77名

当日参加者 165名(代議員・一般会員
105名、教職 5名、教区委員名を含む)

議 長 森田美和、林原淑子

議案内容

1.2024年度活動報告の件
2.2024年度会計決算報告
会計監査報告の件

3.2025年度活動計画案
4.2025年度会計予算の件

総会席上献金(振込も含む)
総額 241,105 円

詳細は、ページ下部をご覧ください。

2025年度 関東教区教会婦人会連合総会 席上献金報告

席 上 献 金	金額(円)	献 金 先	金額(円)
席上献金	177,600	桐生東部教会	10,000
口座振り込みによる献金	49,000	佐渡教会	10,000
その他の献金	5,505	栃尾教会	10,000
指定献金	9,000	長岡教会	5,000
		妙高高原教会	10,000
		日本キリスト婦人矯風会	5,000
		にじのいえ信愛荘	10,000
		部落解放センター	10,000
		アジア学院	10,000
		能登半島地震緊急救援募金	20,000
		ミャンマー地震被災者救援募金	20,000
		小 計	120,000
		振込手数料	1,219
		一般会計に繰り入れ ※	119,886
合 計	241,105	合 計	241,105

※これまで各地区へ会員数に応じた補助金を配分していました。教区からの配布物を、地区内の教会へ配布するための送料等を賄うためでしたが、今後はその費用を、補助金としてではなく、一般会計から事務費として、各地からの請求に応じて支払う事とします。

「総会参加者の声」

「関東教区教会婦人会連合

第51回総会・講演会の感想」

新潟地区 東中通教会 内田早苗

教会の外にまで響くような力強いパイプオルガン。礼拝では、臂奈津恵牧師(渋川教会)から「仕えなさい」と題した説教がありました。「エフェソの信徒への手紙5章21～33節」について。『妻たちよ、主に仕えるように自分の夫に仕えなさい』、女性の社会進出が著しい現代においては夫婦それぞれの立場を尊重し正しい関係をもって神に仕えましょう。忙しく辛い日々でも、日曜日にはイエス様に愛されていることを思い出しイエス様に出合える幸せがあります。歯切れよく分かりやすい説教でした。

午後からは群馬を題材にしたクイズやスライドショー、ギターのジャズショーなど様々な“お楽しみ”で一同、笑顔に包まれました。総会後には、今後の開催をめぐり「高齢化」や「勤務している人の平日参加への壁」、「交通費の負担」など課題が挙げられ、5年のうち2回は「オンラインで開催したらどうか」などの意見が出ました。

末期がん患者の気持ち、支える人の不安などを例に、証をもとに「死に向き合う」ことについて話されたのは、安部勉牧師(高崎教会)です。“助言”や“指示”ではなく“共感”が大切であると受け止めました。高崎教会の皆様のおもてなしに心より感謝致します。



「初めての関東教区教会婦人会連合総会」

埼玉地区 浦和別所教会 梅原優子

子どもの頃から、浦和別所教会の、偉大なご婦人方のお背中をずっと見て参りました。教会を支える、主にある婦人会の働きはまさに「頼もしい」という言葉がピッタリです。私の母も、積極的にお声かけくださるご婦人に手を引いて頂き、色々な集会に参加させていただいておりました。その母

も80歳後半からは聖日礼拝に時々出席するのが精一杯となり、遅まきながら、「これからは私達が継承していかなければ」という思いが起こされ、今回初めて関東教区教会婦人会連合の総会に出席させて頂きました。

“婦人会連合”、どんな総会になるのか、少し緊張しました。しかし、臂奈津恵先生のユーモアを交えたメッセージや、担当群馬地区奉仕の皆様による群馬の紹介の楽しい歌のひと時に、心の緊張はすっかり解かれていました。今回、特に前橋教会牧師、川上盾先生がご挨拶くださった中で、この教会婦人会連合の総会開催にあたり、「変えていかなければいけないこと、変えてはいけないことがあるのではないか」というようなお言葉が、とても印象に残りました。様々な課題がある中で、最善に導いていただけることを祈り、また来年の総会を楽しみにしたいと思います。



「第51回総会・講演会に参加して」

茨城地区 土浦教会 杉井智子

教区の活動に参加するのは今回が初めてで、少し緊張して参加しました。

礼拝が始まり、2階まで吹き抜けの高崎教会の会堂の中に、100名を超える参加者の讃美の聲が響いた時、同じ主を見上げている人がこんなにいるのだ…と胸が熱くなりました。

開会礼拝では、臂奈津恵先生がご自身のこども食堂の取り組みを通して、「仕える」と「従う」ことについて話して下さいました。礼拝の後、群馬地区の皆さんのスライドを使ったクイズと川上先生の歌で、群馬の魅力を楽しく知ることができました。

午後から総会があり、その後の講演会では、高



崎教会の安部先生が病院牧師の経験から、「人の苦しみとケア」について話されました。先生がチャプレンをしておられた大阪の淀川キリスト教病院は、私の長女が生後すぐに障害を発見され入院生活を送った病院です。母親として何もできない無力感と絶望を感じていた私のそばにチャプレンが来てくださり、少しずつ希望をもって子育てできるようになっていったことを、お話を聞きながら思い出していました。

礼拝・総会・講演会を通して、「困難な人と共にいるとはどういうことか」を考える機会を与えられました。群馬のみなさん、ありがとうございました。



『よりそう』という大事なこと」

栃木地区 西那須野教会 小西小百合

6月6日(金)関東教区教会婦人会連合第51回総会・講演会が群馬県高崎教会で行われました。西那須野教会から潘牧師の運転で7名参加いたしました。

今回の総会・講演会は約170名という参加者で、70代の先輩方の参加が一番多く次に60代、50代・・・80代以上の方もなん人もおられて、婦人会連合を長く支えてくださっている先輩方をおぼえました。

昼食には鳥めし弁当をいただきましたが、とても味付けが良く、おいしく楽しくいただきました。

午後の記念講演会は高崎教会安部勉牧師「Not doing But being」―病院牧師の経験を通して―と題し、患者側によりそう、共感する、ただ一緒にいる、そばにいただけで患者さんは安心を得られている。何もしてあげられないが、患者さんのことばを受けとめてあげれば最善である。くるしい病状にいる方をどんな方法でよりそえばいいか安部牧師からのお話で“そばにいたからね”が一番案心できることがわかりました。簡単そうで難しいなあと思いました。

病院牧師の目線での講演、今回は病院でしたが病んでいる方が目の前にいる、その時何をしてあげればよいか、私なりに行動したいなあと思いました。ありがとうございました。



「共に学び、交流の時を持てたことに感謝」

群馬地区 原市教会 嵯峨祐子

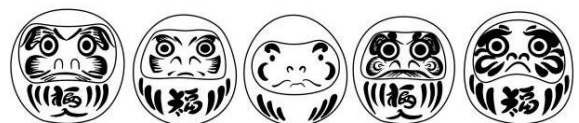
梅雨入り間近の2025年6月6日、関東教区教会婦人会連合総会、講演会に教会メンバー5名で参加させて頂きました。群馬地区が当番区にあり高崎教会を会場に行われました。整えられた会場、やまぼうしの花が綺麗に飾られ、すがすがしい気持ちになりました。

開会礼拝は「仕えなさい」と題して臂奈津恵牧師の説教を聴かせていただき、共に主を賛美する時を与えられた事を感謝します。

総会の後の講演会は安部勉牧師から「Not doing But being」と題してお話を聴きました。病院のチャプレンの働きをされていた先生のお話から、限りある私たちの人生これからをどう生きるか、この時間を大切に使うことが重要であることを知らされました。死というものは誰も避けられないものですが、私たちは普段あまり考えないで生活しています。今回の講演を通して神様に支えられている、信仰に支えられていることの有難さを感じました。

そして、今回、総会、講演会に参加して地域を越えて交流することの大切さを感じました。また、どちらの教区でも、婦人会の会員の減少、高齢化、又役員選出の困難さ等問題が山積みです。一人一人は小さな力ですが、皆で力を合わせ歩んで行くことが重要だと思いました。

最後になりましたが、この1日の総会、講演会の計画を立て実施して下さいった役員の方々のご奉仕に心から感謝いたします。



各地区委員長あいさつ

新潟地区

委員長：高橋雅子(妙高高原教会)
書記：松尾悦子(東新潟教会)
会計：田口明美(東中通教会)
広報：加藤邦子(新潟教会)
教区：横山由美子(東中通教会)
協力牧師：森田泰司(新潟信濃町教会)

「地区委員長就任にあたって」

高橋雅子(妙高高原教会)

第29期新潟地区婦人会連合委員長となりました高橋雅子です。新潟教会婦人会から出させて頂いていますが、所属教会は妙高高原教会です。1年の内ある時期しか礼拝を行ってはず、その時以外は新潟教会の教友(客員)としてこちらで礼拝を守らせて頂いています。そんな事から、内部的なお手伝いはできるが対外的なところでの働きを担うことは私の立場ではご容赦下さいと申し上げてきました。しかし、その妙高高原教会が3年前、雪のため全壊し、会堂再建を目指すことになりました。教区、地区、多くの皆様から献金をいただき、11月3日の献堂式に向けて建築が始まっています。そんな中、この地区委員の仕事を、今だからこそ引受けたらどう？と勧めて下さった方があり、それは神様からの声として私に響きました。

29期教会婦人会連合の主題は「キリストにある平和を共に追い求めよう」です。神様からの召しに背を向けたヨナのように、逃げようとした私にチャレンジが与えられました。「キリストにある平和を」「共に」追い求める事、そのための良い出会いが備えられました。欠けの多い者ですが、学びつつ地区の為の働きを共に進めてゆきたいと思います。どうかよろしくお願いいたします。

茨城地区

委員長：松崎真実(筑波学園教会)
書記：杉井智子(土浦教会)
会計：鈴木直美(筑波学園教会)
教区：佐藤清実(石岡教会)

「地区委員長を受けて」

松崎真実(筑波学園教会)

主の聖名を讃美します。

8年前、初めて地区の会計のお役を受けさせて

頂きました。それまで、ほとんど地区の集まりにも参加した事がなく、とても不安だったのですが、地区総会、教会訪問、役員会と、新しい出会いもあり、他教会の皆様との交わり、祈りの時間を頂く事ができ、恵みのある2年間となりました。今年度の茨城地区は、19教会伝道所、142名で活動がスタートしました。

主題「キリストにある平和を共に追い求めよう」を心に止め、礼拝継続が困難な教会伝道所に、一人でも多くの兄弟姉妹が与えられますように。女性部組織の困難な教会の皆さんとの繋がりを継続していただけますように。良い知恵が与えられますように。無牧の教会に牧師が与えられますように。を祈りの課題として新しい役員の皆さんと共に、知恵を出し合い活動を進めて行きたいと願っています。

私も、体調不良や、悩みを抱えている時に、多くの教会の皆さんに励まされ、力を頂く事ができました。困難な時に、一人ではなく、一緒に祈ってくれる仲間がいるという事はとても心強い事です。直接お会いできない方にも、お便り等を通して、活動を発信し繋がっていきたいと思います。これからも、皆様のご協力よろしくお願いします。

群馬地区

委員長：徳島恵子(前橋教会)
副委員長：西谷美和子(伊勢崎教会)
書記：江村恵子(桐生東部教会)
：佐藤秀子(甘楽教会)
会計：関根典子(高崎教会)
教区：林原淑子(原市教会)
協力牧師：安部勉(高崎教会)

「タラントを惜しみなく活かして」

徳島恵子(前橋教会)

昨年に引き続き、群馬地区委員長の任をお受けすることになりました。群馬地区もご多分に漏れず、地区委員の担い手がなく、昨年度教区委員だった江村恵子さんと私が残ることになりました。特に6月の第51回関東教区教会婦人会連合総会・講演会の開催地区の準備委員として、地区委員、地区の婦人会の皆さんの協力を得て、無事に関東教区各地区の皆さまをお迎えすることができ、ホッとしています。172名の受入については、嬉しい悲鳴でしたが、どのように混乱せずにお迎えできるか、知恵を出し合い、それぞれが与えられたタラントを惜しみなく活かして、終了後の片付け、お

掃除まで、協力し合うことができ、終わった後は、感謝と達成感に満たされました。

高齢化、無牧師の問題など、課題は多くありますが、祈り合い、共に担い合って行きたいと思えます。当日、群馬紹介コーナーでもご覧いただきましたように、明るく楽しい群馬地区ですから。

私自身は、以前責任者をしてきた知的障害の入所施設で、半日お手伝いをさせていただきながら、民生委員など、忙しい日々を送っていますが、用いられることの喜びに力を与えられています。



栃木地区

委員長：宮本潤子(氏家教会)
副委員長：正木敬子(宇都宮上町教会)
書記：渡部律子(足利教会)
会計：田中隆子(鹿沼教会)
教区：小島美香(西那須野教会)
協力牧師：大下陽子(益子教会)

「栃木地区です今年も
どうぞよろしく！」

宮本潤子(氏家教会)

2025年度は地区婦人部の役員改選年に当たります。委員会で話し合い、お声がけ等した結果、上記の5名が4月の代表者会で承認、決定されました。それぞれ多忙にもかかわらず、再任を受けて下さった方々へ、また今期は県央・県北に加えて、県南からも役員が加わり、心から感謝しています。不肖の私も委員長再任ということで、色々至りませんが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

毎年秋、地区婦人部の修養会を行っています。コロナ禍もひと段落した今年は、久しぶりで一日研修とし、昼食を挟んで午前「聖書の学び」、午後は、「CAP(子どもへの暴力防止)ワークショップ」を小山教会で開催致しました。今回は、子どもたちを守るためのCAPプログラムを含むということで地区教育部も協賛して下さい、嬉しい限りでした。

さて、来年2026年度6月には関東教区教会婦人会連合の総会(及び講演会)が栃木県で開催されます。教区内5地区の会場教会を一巡するというので、皆で準備を進めています。会場の四條町教会は歴史あるすばらしい建物ですが、隣接マンションの建設のため直近の駐車場が無くなり、

苦慮しているところです。7月には第29期教区委員長も視察に来県され、親しく率直にお話し合いをさせて頂きました。大変有意義な準備会合となり、感謝です。



埼玉地区

委員長：中村百合子(埼玉新生教会)
副委員長：高崎和子(所沢みくに教会)
書記：古澤ひかる(越谷教会)
会計：鈴木小夜子(春日部教会)
教区：大熊眞弓(東京聖書学校吉川教会)

「第29期埼玉地区
婦人部委員長になって」

中村百合子(埼玉新生教会)

埼玉地区の埼玉新生教会の教会員になって40年以上になりますが、関東教区婦人会連合の集まりに出たのは、数える程しかありませんでした。それが、昨年、大宮教会での《第28期全国委員研修会》と《隔年研修会・牧師ジャズ》に続けて参加しました。振り返ると今年委員長になることへの《主の布石》であったように思います。現在、埼玉地区の婦人部への登録は42教会・伝道所、636名です。関東教区の中で一番の大所帯です。委員長の重責に～恐れおののく思い～です。今の埼玉地区の課題は、636名の登録会員がいますが、委員の受け手不足！です。どの地区の課題でもあると思いますが、会員の高齢化に加えて、若い会員はほとんどが有職！有職者でも委員が受けられるようなこれからの委員会のあり方が問われます。

第29期の教会婦人会連合の主題の聖書箇所であるエフェソの信徒への手紙を、毎回の委員会で読んでいます。更に事ある毎にみことばに立ち返って与えられた歩みを進めたく願っています。



関東教区教会婦人会連合 2024 年度会計決算及び 2025 年度予算

本会計 自 2024 年 4 月 1 日～至 2025 年 3 月 31 日

報告者 石井正子

収入の部

	項 目	2024 年度 予 算	2024 年度 決 算	2025 年度 予 算 (案)	備 考
1	全国自主献金	399,000	390,570	390,000	2024 年度予算: 300 円×1,330 名 2024 年度決算: 300 円×1,281 名+330 円×19 名 2025 年度予算: 300 円×1,300 名(2024 年度自主献金納入数)
2	教区自主献金	518,700	509,340	509,340	2024 年度予算: 390 円×1,330 名 2024 年度決算: 390 円×1,306 名 2025 年度予算: 390 円×1,306 名(2024 年度自主献金納入数)
3	関東教区宣教部交付金	20,000	20,000	20,000	
4	特別献金	0	174,600	0	献金 6 件+隔年研修会箱献金 112,500 円
5	研修会会計	0	0	0	
6	雑収入	0	33	0	利子
7	前年度繰越	650,610	650,610	434,461	
	合 計	1,588,310	1,745,153	1,353,801	

支出の部

1	全国自主献金	399,300	390,870	390,000	2024 年度予算:300 円×1,330 名+300 円(未送金分) 2024 年度決算: (300 円×1,281 名) + (330 円×19 名) + 300 円(未送金分) 2024 年度予算: 300 円×1,300 名(2024 年度自主献金納入数)
2	研修会会費	100,000	177,210	0	2024 年度隔年研修会実施
3	便り発行費	100,000	83,380	50,000	決算: 2 回発行 予算: 1 回発行
4	委員会費	310,000	350,818	310,000	委員交通費・会場費
5	中央委員会陪席費	30,000	0	30,000	委員出席・交通費
6	教区諸集会参加費	20,000	22,000	22,000	教区総会への委員長参加宿泊費
7	事務通信費	80,000	48,518	70,000	送金手数料・送料・印刷代・委員活動費
8	総会費	80,000	61,258	100,000	総会資料印刷・送料・監査交通費
9	全国委員研修会参加費	40,000	32,522	40,000	2024 年度関東教区で開催。準備・協力の教区・地区委員参加費半額補助・教区委員交通費
10	全国的研修会基金積立	50,000	50,000	50,000	* 特別会計へ
11	雑費	0	0	0	
12	東日本大震災義捐金	50,000	50,000	50,000	全国教会婦人会連合経由で配賦
13	予備費	329,010	44,116	241,801	決算: 地区委員長総会陪席片道交通費 ※
14	次年度繰越金		434,461		
	合 計	1,588,310	1,745,153	1,353,801	

* 特別会計:全国的研修会基金積立

10 年毎に開催される全国集会参加費の積立金
60 周年は 2029 年 6 月開催予定)

前年度積立金 348,851

本年度積立金 50,000

積立金総合計 398,851

※お詫び

2024 年度決算で予備費から、2024 年度総会への地区委員長陪席片道交通費を支出しております。この支出は、総会開催前に教区委員で話し合い、予め支出を計画していたものですが、地区委員長の交通費補助の開始時期について総会で質問があった際、教区委員相互の理解が不十分だったために、2025 年度から支出するとお答えしてしまいました。この報告書にてお詫びし、報告とさせていただきます。

監査の結果、相違ない事を認めます。

2025 年 4 月 1 日

会計監査 竝木 夏実



第29期 教区委員からごあいさつ



29期に導かれて

委員長 林原淑子(群馬地区原市教会)

関東教区に来て、三年めに入りました。昨年度から群馬地区婦人部委員になり、今年度6月から教区教会婦人会連合委員長となりました。それによって、中央委員会や宣教部の一員とされ、教団の宣教というものの実体を実感しています。

ミッション系高校にてキリストと出逢い、同大学から隣接神学大学の大学院に進学するも、一信徒に留まるよう導かれ、主はわたしをフリーとして自由にお使いになりたいのだろうと察しながら、現在に至っています。実際、日常生活で出会う隣人と言うべき方々とのコミュカに不自由はなく、なるほどと思って過ごしています。型にはまらず、頭を柔軟に、加速する時代の進化にも、風のように対応していきたいと思っています。

部落差別に関心を向ける

—自己変革の時

副委員長 横山由美子

(新潟地区東中通教会)

これまでも副委員長は代々、教区部落解放推進委員会に出席されています。不慣れなわたしですが、祈りつつ学びたいと思います。日本基督教団が、1975年7月の常議員会で部落差別問題特別委員会の設置を決議し、部落解放の働きを正式に開始したのだそうです。毎年7月第2主日を部落解放祈りの日としています。

わたしは幼稚園の仕事やYWCAでの活動などで、「あらゆる差別のない、一人ひとりが大切にされる社会をつくりたい」と願ってきました。これまでの学びを総動員して、教区の皆さんとともに変革を進めていきたいと願っています。まずは、私たちの問題なのだということから始めたいと思います。ご一緒にお祈りください。

ただ、備えられた道を歩み行かせて下さい

書記 大熊眞弓

(埼玉地区東京聖書学校吉川教会)

私の属する教会は、日本基督教団認可神学校である東京聖書学校を支えるために生

み出された教会です。創立31周年を向かえます。教会建物内に、神学校(教室・寮・食堂・舎監室)及びホーリネスの群の事務所があります。ここで学んだ神学生が、日本中また世界へと宣教のわざをひろげています。昨今の牧師不足により無牧の教会が増え一人の牧師が複数の教会を牧会していく中、今後は益々、近隣の教会同士の交わり、さらに日本中の教会が交わっていると肌感覚で分かることが必要なのではないかと思います。主が全てを導かれるよう祈りつつ、自分に備えられた道を歩ませていただきたいと思います。

小さな無牧の教会から

主に押し出されて

会計 佐藤清実(茨城地区石岡教会)

教区での活動を始めて強く感じたことは、29期委員それぞれの賜物を、神様が実に絶妙に組み合わせて下さっている事、そしてこの足りない私も仲間に加えて下さった恵みです。両親と通っていた教会の近くに嫁いだお陰もあり、同じ教会で70年を過ごして来ました。井の中の蛙で教会を越えての交わりに消極的な私が、地区委員をさせていただき、次は教区で奉仕するようにと主に押し出されました。教会婦人会連合の事が少し分かり始めたところです。

それぞれの教会の困難、それぞれに必要なものを主はすべてご存じです。主の良き働き人として、「イエスは主である」と告白をする姉妹たちと、共に用いられますように。皆さまのお祈りで支えてください。

大宮教会の十字架

広報 小島美香

(栃木地区 西那須野教会)

第一回教区委員会の日、方向音痴の私は迷いながら大宮教会に向かっていました。交差点で「ここを右かしら、左かしら？」と見回すと、遙か前方にそびえる十字架が見えました。ハッとしました。「私のもとに来なさい。来て人々のためにつくしなさい」というイエス様の声が聞こえるようでした。十字架は私達の集まりの先頭には必ず、イエス様がいらっしゃることをはっきりと示していました。小さき者ですが教区の為に働きたいと願っています。

拡大委員会の報告

拡大委員会とは教区委員と各地区委員長が婦人会の活動について意見交換する大切な場です。

＊日時：2025年9月16日（火）

11:30～15:30

＊会場：日本基督教団大宮教会

＊出席者：高橋雅子（新潟地区委員長）、徳島恵子（群馬地区委員長）、宮本潤子（栃木地区委員長）、中村百合子（埼玉地区委員長）、松崎真実（茨城地区委員長）、飯塚拓也牧師（関東教区宣教部委員長）、林原淑子（教区委員長）、横山由美子（副委員長）大熊眞弓（書記）、佐藤清実（会計）、小島美香（広報）（合計11名）

＜報告事項＞

各地区婦人会の活動報告・予定、第51回総会報告、第114回中央委員会報告、第29期全国委員研修会について、部落解放全国会議について、外部献金報告、準備委員会報告、決算・報告（群馬地区）、総会の当日アンケート結果報告

＜協議事項＞

第51回総会・講演会の反省と、アンケート結果を受けて以下の事を検討している。

- 1)経費削減のため、委員会をなるべくZoom開催とする。(Zoomの有料契約1年で26,384円)
- 2)2027年総会からは、総会および研修会は教区委員会が中心となり企画・運営する。それにかかる費用は教区本会計にて対応する。
- 3)①総会と修養会を分けて行うための婦人部規約の改定について
②教区会計3本を1本に統合する件



＜各地区委員長からの

ご意見・ご要望＞

- ・今年度は例年通り実施したが、これを機会に変えられるところは変えたほうがよい。
- ・規約を現状に合わせていくことに賛成。
- ・会計についても、誰が見ても分かるように改定していくことに賛成。
- ・3つの会計の他に箱献金もあり、何のために捧げるのか伝わっていない。
- ・総会・修養会の準備委員を担って初めて、「持ち回り金」の存在を知った。それが知られていないことは課題である。
- ・総会席上献金からの地区への援助は不要と思う。
- ・教区の配布物は、教区の費用で印刷・郵送するのが筋ではないか。出来るだけ、工夫して配布するよう地区の教会に依頼するが、郵送せざるを得ないものに関しては、実費を教区に請求できるようにしてほしい。
- ・今は過渡期であるが、将来的には紙ベースのものを配布しないで、データ通信へ移行していくべきではないか。全国婦人会連合へ意見を伝えてほしい。
- ・総会・修養会に参加できない方からも献金が見送金されている。(2025年度49,000円)今後も献金呼びかけを継続して欲しい。

＜飯塚拓也牧師

（関東教区宣教部委員長）より＞

エフェソ1:15～23の御言葉のときあかし、と教区教会婦人会連合の位置づけをご説明頂いた。『関東教区教会婦人会連合は、教区宣教部委員会の自主活動団体です。

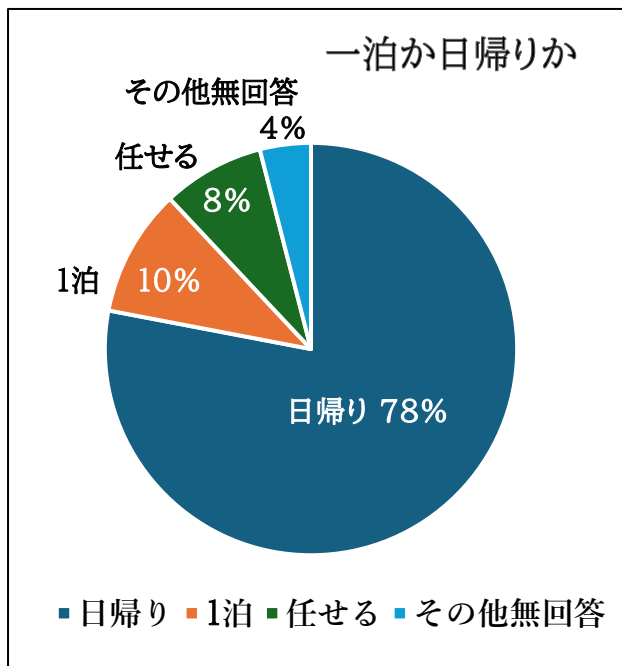


その意味は、教区婦人会連合の主体性を大切にしたいという趣旨で、関東教区の大変な組織、働きとして認められている事を皆さんに伝えてほしい』とのことでした。感謝。

＜総会アンケート回答結果＞ （回答総数 51 通）

設問 1 ご希望の総会の形を選び、丸をつけてください

		1泊か日帰りか	票数	小計	%
1	日帰り	日帰りで各地区の教会で開催する。人数制限があっても致し方ない	24	40	78%
		日帰りで各地区の教会で開催、できれば人数制限なく開催する	2		
		日帰りで 人数制限なく 公的施設で開催する	12		
		日帰りで 人数制限なく 各地区の教会もしくは公的施設で開催する	2		
2	1泊	以前のように1泊2日の総会・修養会をホテルで行う。	4	5	10%
		日帰り(教会)ホテル1泊を交互でも良い	1		
3	任せる	特に形を決めず、その年、その地区のやり方で開催する	4	4	8%
4		その他 無回答など	2	2	4%



日帰りか一泊かの設問に対しては、

78%の方が、日帰りを選びました。

また、「その地区に任せる」を合わせると86%の方が日帰りでよいと回答しています。

設問2 「総会のあり方について また 今回の総会について何かご意見があればどんなことでもお書きください」

設問 3「総会以外のことでも、関東教会婦人会連合の活動全般について意見があればお書きください」

(これらの回答を抜粋して下記に記載)

＊時間と交通費をかけているので連帯が「形」として見えるよう希望。若者にも関心が持てるとよい。

＊高齢化、人材不足等、教区婦人部総会も変化を求め

られている。婦人部以外の教会全ての今後も未来を考えなければいけない時代、婦人部以外の教区全体で考えた方が良くと思う。

＊コンサートなどを研修で行えたら嬉しい。川上牧師のギター演奏とソングがとても良かった。励まされて元気になりました!!

＊大勢の婦人会会員が一同に集うこの総会は貴重で有意義なものだと思う

＊バザーはできれば 昼休に開かせて欲しかったです。

＊高齢化について、ブレインストーミングのような形で考える機会があると良い。他の集会で若い方のリードで思いがけないアイデアが色々と提案されていき、前進のきっかけを生んだことを見て。

＊他の教会の方や牧師先生のお話が伺えてよかった。無理のない形で続けて欲しい。

＊今回は170名で満たされた総会となり感謝です。群馬地区の皆様が祈りを合わせ協力し、おもてなししていただきました。総会は形式にとらわれず、公正に行われていれば良いのではないかと考えます。オンラインでできることを進め、対面で確認し、短時間に収めるようにと願います。対面でお会いできる幸いを共に喜び、交わりの時を大切にしたいです。そして、これからのビジョンを描けるような意見交換の場(ワークショップなど)を創出できればいいなと思いました。

【 アンケートから読み取れること 】

1 少子高齢化が進んでいる。開催の担い手不足・長時間の企画への参加への負担感増大。

2 1泊で行なっていた修養会・講演会が日帰りになり、スケジュールが詰まりすぎている。

＊以上のアンケート回答結果と、9/16(火)の拡大委員会での、各地区委員長のご意見等をまとめ、

教区委員会から次の様に提案させていただきます。

1. 総会と研修会(修養会)のあり方について実態に合わせ改正する。それには規約改正が必要になるので、規約改正についても考える。
2. 会計を誰が見ても分かるように改正する。

是非皆様のご意見を、地区委員長を通して教区委員会までお寄せください。



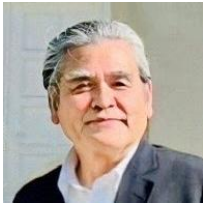
飯塚牧師と各地区婦人部委員長・教区委員

2026 年度関東教区教会婦人会連合第52回総会・講演会

日時:2026 年 6月 4日(木)

場所:日本基督教団四條町教会 電話:028-634-6702

住所:〒320-0861 栃木県宇都宮市西3丁目 5-11



☆講演会 講師:有馬平吉先生 (1979 年から 36 年間、ICU 高等学校キリスト教科主任 2005~2020年 ICU 宗教科教育法の授業担当、現在秋川キリスト集会牧師、ICU理事、著書「キリガイ」2012)

主題:「次世代への伝道」

2026年 世界祈祷日

テーマ国はナイジェリアです。

世界祈祷日は例年3月第1金曜日に開催いたします。それぞれの地域の状況にあわせて土日開催や時期をずらして開催されています。

どうぞご参加ください。

メールの活用について

教区委員会からの配布物について、メールでの配信体制を整えて下さった地区も出てまいりました。郵便料金も値上げされました。そのため、メールでの配信体制を各地区で前向きにご検討いただき、その運用が進みますようご協力をお願いいたします。

編集後記

主のみ名を賛美します。皆様に婦人会連合便り No.102 をお届けすることができ感謝です。今年度から関東教区のホームページにも載せていただけるようになり、カラーでご覧いただけます。右の二次元コードをお使いになると便利です。教区教会婦人会連合も新しい時代に適応していこうと考えています。皆様のお祈りとご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

広報 小島美香



日本基督教団
関東教区教会婦人会連合便り
発行 2025 年 11 月 発行人 林原淑子

No.102